

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	自動発達支援事業所 あおば		
○保護者評価実施期間	令和8年3月4日		～ 令和8年3月12日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答者数) 10
○従業者評価実施期間	令和8年3月4日		～ 令和8年3月12日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年4月17日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	サービス提供時間を6時間に設定し、生活の流れを習得できるよう支援しています。	併行利用児童が、小集団で生活の流れを習得できるようスケジュールを組んでいます。スケジュールは視覚化し、次の行動へよりスムーズに移行できるよう支援しています。また、基本的な生活習慣の獲得のため、個別にゆっくり支援しています。	6時間という時間を活かし、集団活動による社会性の育成と、個別活動による課題克服の時間配分を定期的に見直します。子どもの状態に応じて柔軟に構成を調整します。
2	視覚支援を中心とした分かりやすい環境づくりをしています。	スケジュールや活動の見通しを子ども自身が理解できるようにすることで、不安の軽減や主体的な行動を促しています。	子どもが自らスケジュールを確認したり、次の行動に移れるよう、視覚支援を「見せる」から「使える」段階へ発展させます。
3	併設する保育園の園児と触れ合う時間を設けています。	保育園の園児と触れ合う時間を設けることで、同年代の子どもとの自然な関わりの中で社会性やコミュニケーション力を育む機会を提供している。	単なる交流にとどまらず、「挨拶ができる」「順番を待つ」「一緒に遊ぶ」など具体的な目標を設定し、子どもの発達段階に応じた関わり方を計画的に実施します。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	6時間という長時間の支援の中で、子ども一人ひとりの集中力や特性に応じた活動調整が十分に行き届かない場合があります。	6時間という長時間の支援の中で、活動内容が固定化しやすく、子ども一人ひとりの集中力や特性に応じた柔軟な活動調整が十分に行き届かない場合があります。また、職員間での情報共有や役割分担が不十分な場合、個別対応のタイミングに差が生じてしまいます。	長時間利用の中でも集中が持続しやすいよう、活動時間の配分や内容を細分化し、動と静のバランスを意識したプログラムへの見直しを検討します。
2	子どもが併行利用している保育園との交流は実施していますが、関わり方の目的や支援方針の共有が十分でない場合があり、一貫した支援につながりにくいことがあります。	子どもが併行利用している保育園との交流は実施しているものの、交流の目的や支援方針についての共有が十分でない場合があります。また、情報共有の機会や方法が限定的であるため、日々の関わりや配慮事項が統一されにくく、一貫した支援につながりにくい状況が生じています。	個別支援計画の内容をもとに、保育園と共通理解できる支援方針や関わり方を整理し、日常の関わりに反映します。
3	支援方法や関わり方について、職員ごとに理解や実践に差が生じることがあり、統一した支援提供が課題となっています。	職員ごとに経験年数や理解度の違いがあるため、解釈や実践に差が生じることがあります。	子どもごとの支援方法について話し合う場を設け、対応の方向性を統一するとともに、実践力の向上を図ります。申し送りや記録の活用を通じて、子どもの様子や対応方法をタイムリーに共有し、誰が対応しても一貫した関わりができる体制を整えます。